

第13回 宝塚市教育環境審議会

日時:令和8年(2026年)8月19日(水)13時30分から

場所:宝塚市役所 第二庁舎1階 会議室 A,B

1 開会

2 会議の成立及び公開について

3 議題

- (1) 諮問事項1:市立幼稚園の適正規模及び適正配置について
- (2) 諮問事項2:市立幼稚園の教育・保育の在り方について(機能充実)
- (3) 諮問事項3:教育委員会及び市立幼稚園の公教育としての役割について

4 その他

5 閉会

【配布資料】

- 資料1 令和8年度宝塚市教育環境審議会委員名簿(改)
- 資料2 教育環境審議会 提出資料
- 資料3 3園からの要望書(丸橋幼稚園・末成幼稚園・宝塚幼稚園)
- 資料4 諮問事項2,3について

令和8年度 宝塚市教育環境審議会 3期-2 委員名簿

	区分	氏名	ふりがな	所属等
1	知識経験者	前田 高志	まえだ たかし	大阪学院大学 経済学部 教授 関西学院大学 名誉教授
2		當山 清実	とうやま きよさね	兵庫教育大学 教職大学院 学校経営コース 教授
3		辻 竜平	つじ りゅうへい	近畿大学 総合社会学部教授
4	知識経験者 (幼児教育)	石野 秀明	いしの ひであき	兵庫教育大学大学院 幼年教育・発達支援コース 教授
5	児童又は生徒の 保護者の代表者	小島 豊一郎	こじま とよいちろう	宝塚市PTA協議会
6		河野 文子	かわの ふみこ	宝塚市PTA協議会
7	【臨】園児の 保護者の代表者	平松 友紀	ひらまつ ゆき	宝塚市PTA協議会
8	学校長	迫 あかね	さこ あかね	R8年度 小学校校長会長 学校長(高司小学校)
9		柳田 覚	やなぎた さとる	R8年度 中学校校長会長 学校長(宝塚第一中学校)
10	幼稚園長 (公立)	佐藤 奈美	さとう なみ	令和8年度 市立幼稚園長会長 園長(丸橋幼稚園)
11	保育所長 (公立)	西畑 智佳	にしはた ちか	令和8年度 市立保育所長会代表 所長(めふ保育所)
12	【臨】幼稚園長 (公立)	橘 俊一	たちばな しゅんいち	宝塚市立末成幼稚園長
13	【臨】幼稚園長 (私立)	岡野 泰和	おかの やすかず	宝塚厚生幼稚園長
14	【臨】幼稚園長 (私立)	小和田 勉	こわだ つとむ	花屋敷幼稚園長
15	【臨】保育所長 (私立)	高橋 薫	たかはし かおる	仁川ウエル保育園長
16	市内の公共的団体の 代表者	高井 美智子	たかい みちこ	宝塚市青少年補導委員連絡協議会
17		西林 陽子	にしばやし ようこ	宝塚市民生委員・児童委員連合会
18	公募による市民	田井 眞一	たい しんいち	市民公募委員
19		田村 典子	たむら のりこ	市民公募委員

教育環境審議会 提出資料

これまでに寄せられた保護者・PTA会長会等の意見・要望の整理

宝塚市の公立幼稚園再編に関する審議にあたり、これまで保護者、PTA会長会、保護者説明会、各園から提出された意見陳述書等で示されてきた意見・質問・要望を、審議の参考資料として整理したものです。

本資料では、3園に共通する意見・要望と、末成幼稚園・丸橋幼稚園・宝塚幼稚園それぞれに固有の事情や意見を分けて整理しています。

本資料は保護者全体の意見が一つに一致していることを示すものではありません。実際に提出・表明された要望書、意見書、嘆願書、申入書、署名、説明会、各園の意見等をもとに主な論点を整理したものです。個別の体験・認識については、事実確認が必要な事項を断定せず、示された意見として整理しています。

1. 3園に共通して示されてきた主な意見・要望

(1) 公立幼児教育の今後のあり方を先に議論してほしい

真っ先に公立幼稚園の廃園を議論するのではなく、これからの宝塚市の幼児教育、公立幼稚園が担うべき役割、公立幼稚園を今後も選ばれるものにするにはどうすればよいのかを検討した上で、再編の必要性や各園の存廃を議論してほしい。少子化や園児数の減少、行政資源の制約は理解しているが、なぜ園児数が減少しているのか、その背景や制度・保育内容・募集方法等も含めて検証する必要がある。

(2) 園児数や「15人」という基準だけで存廃を判断しないでほしい

「15人」という基準が子どもにとって本当に適切な教育環境を判断する基準なのかを検証してほしい。少人数には、一人ひとりを丁寧に見られる、子どもの発言や気づきを拾いやすい、教師と子どもの関わりが深くなる、異年齢の関わりを生かせる等の教育的側面がある。一方で一定規模の集団が重要との考えも理解しているため、小集団教育の利点・不利益を専門的知見も踏まえて検討してほしい。

(3) 園児数を判断材料とするのであれば、まず保護者ニーズを検証してほしい

現在の公立幼稚園は、保育内容や保育時間、3年保育等で私立と条件が異なる。現在の園児数だけを「公立幼稚園への需要」と判断することには慎重であるべき。3年保育、午後保育、保育時間の延長、給食等を整えた場合の需要を調査し、実際の保護者ニーズを検証してから存廃を判断する方法も検討してほしい。家庭のニーズは様ではなく、短時間勤務と家族との時間を両立したい家庭や、子どもと過ごす時間を大切にしたい家庭もある。

(4) 「残る園の拡充」が本当に公立幼稚園の充実につながるのか検証してほしい

再編後の3年保育、午後保育、給食等について、それが単に園児数を確保するための施策なのか、公立幼稚園を選びたい家庭を増やすための施策なのかを明確にしてほしい。公立を残すのであれば、園児を減らさないためだけでなく、公立幼稚園をどのような教育・保育の場として充実させるのかを同時に検討する必要がある。

(5) 公立幼稚園が担う教育的・地域的役割を評価してほしい

少人数教育、多様な子どもの受け入れ、特別支援、幼小連携、地域とのつながり、家庭と園が子どもの育ちを共有する役割、私立とは異なる教育の選択肢等を評価してほしい。信頼できる教職員が子どもを育てるだけでなく、培ってきた経験や教育を次世代の教員につなぐ役割もあるのではないかな。

(6) 特別支援の受け皿について、閉園より先に具体的な体制を示してほしい

私立園の受け入れ体制、加配人員、市の研修・連携、重い支援が必要な子どもや医療的ケア児への対応、支援の継続性、財政支援の持続可能性等を具体的に示してほしい。「支援する」という制度説明だけでなく、子どもと保護者が安心して卒園まで過ごせる環境が確保されるのかを閉園判断より先に検証してほしい。

(7) 閉園後の「受け皿」が、本当に機能するのか検証してほしい

定員だけでなく、支援体制、通園距離、交通手段、安全、駐車・駐輪、制服・用品等の費用、きょうだい・持病・介護・ワンオペ等の家庭事情まで検証してほしい。公立から別の公立へ移る場合と、私立を受け皿とする場合では、通園環境、費用、教育内容、支援体制等が異なることも考慮してほしい。

(8) 保護者・地域の声を「反対意見」で終わらせず、審議に反映してほしい

要望書、意見書、嘆願書、申入書、署名等を単に「閉園反対」として処理せず、なぜ存続を求めるのか、何を必要としているのか、どのような教育的・地域的価値があるのかまで読み取ってほしい。提出された意見がどのように整理・検討され、答申案にどう反映されたのかも示してほしい。

2. 末成幼稚園について特に示されてきた意見・要望

(1) 園児数だけでは評価できない末成幼稚園の位置づけ

末成幼稚園は現在、宝塚市の公立幼稚園の中で園児数が3番目に多い。少子化の中でも一定の園児が集まっていることから、なぜ現在も選ばれているのかを検証してほしい。子どもの興味や小さな気づきを大切に、遊びを通して考える力、探究心、コミュニケーション力、他者と関わる力、自己肯定感等を丁寧に育てていると感じる保護者の声がある。

(2) 幼小連携・地域とのつながり

実際に通う小学校との交流があり、新しい環境に慣れるまで時間がかかる子どもの安心につながっている。徒歩や自転車で通えることで、降園後の公園遊びや保護者同士の交流も生まれている。地域で子育て家庭を支えるつながりとして評価してほしい。また、教育や先生方、園の環境に魅力を感じ、通園を希望して校区への転居を選んだ家庭もあるという声がある。

(3) 3年保育について、これまでの経緯と潜在的需要を検証してほしい

約5年前、末成幼稚園で3年保育を求める保護者から署名が提出されたが、実現には至っていない。当時の説明については現在も事実確認が必要な事項として扱う。過去に求めた選択肢が十分に実現されなかった経緯も含め、現在の園児数だけを需要の結果とせず、潜在的需要を調査・検証してほしい。

(4) これまでの保護者・地域の声を判断材料として扱ってほしい

末成幼稚園について要望書、意見書、嘆願書、申入書、署名等を通じて継続的に意見が提出されている。令和8年7月8日には存続を求める1,359筆の署名が提出された。署名数を他園と比較するのではなく、末成についてこれだけの声が寄せられている事実として判断材料にしてほしい。

3. 丸橋幼稚園について特に示されてきた意見・要望

(1) 少人数・異年齢教育の価値を評価してほしい

少人数を生かし、一人ひとりに目が行き届いた教育が行われている。子ども自身が考え、意見を持ち、発言する機会があり、年長児と年中児が互いに意見を出し合い役割を考える活動等がある。異年齢での関わりによる育ちがあるという意見がある。

(2) 特別な支援を必要とする子どもを受け入れてきた実績を評価してほしい

特性のある子どもが在籍し、加配対応を行ってきた実績がある。私立幼稚園への入園を断られた、定員超過等で私立を選べなかった、経済的負担や加配対応の実績を理由に公立を希望する等、公立幼稚園を必要とする家庭が存在するという意見がある。

(3) 通園環境と地域的役割を検証してほしい

閉園した場合、最寄りの公立幼稚園までの距離だけでなく、坂道や交通環境、駐車環境、各家庭の車の保有・利用状況、園バスの計画等を含め、実際の通園手段が確保されるのかを検証してほしい。また、保育園・小学校・中学校との連携等、地域の教育拠点としての役割も評価してほしい。

4. 宝塚幼稚園について特に示されてきた意見・要望

(1) 教育・福祉の両面を担う地域の子育て拠点として評価してほしい

子ども家庭支援センターが管轄する育児サークル「いちごみるく」の活動場所としても利用され、幼小連携に加えて乳幼児とのつながりも生まれる環境がある。地域の子育て・教育・福祉を支える拠点としての役割を評価してほしい。

(2) 私立幼稚園が受け皿となる場合の費用負担を検証してほしい

閉園後に周辺の私立幼稚園が受け皿となる場合、保育料が無償化されていても、入学金や制服代等の実費に差額が生じるとの意見がある。入園時・在園中を含む実際の家庭負担を比較し、閉園によって生じる経済的負担を検証してほしい。

(3) 特別支援の受け入れ体制を、閉園より先に具体的に示してほしい

周辺の私立幼稚園のうち支援を必要とする子どもを受け入れている園は限定的との意見がある。今年度にも私立入園を断念して宝塚幼稚園に入園した園児が複数いるとの声がある。私立園の受け入れ状況、研修・連携体制、加配人員、継続的な支援体制等を具体的に示し、十分な受け入れ先を確保してから閉園を判断してほしい。

(4) 公立幼稚園だからこそ受け入れられる多様な子どもたちの環境を評価してほしい

周辺には児童養護施設もあり、特別支援だけでなく、さまざまな家庭環境や特性を持つ子どもにとって公立幼稚園が必要となる場合がある。多様な子どもたちが同じ場で学び、保護者同士も理解を深めながら過ごせる環境としての役割を評価してほしい。

(5) 将来の公立幼稚園の配置を考える上で、通いやすさを評価してほしい

阪急清荒神駅、宝塚駅、JR宝塚駅、路線バス等からの交通利便性があり、駅からの道も比較的平坦で、図書館等の公共施設も近い。将来、公立幼稚園の数が少なくなった場合、市内から通いやすい場所に公立幼稚園を残すことも重要ではないか。

5. 審議にあたり、特に検討していただきたい事項

- ・閉園を前提とせず、存続・改善を含む複数の選択肢を比較検討すること。
- ・園児数だけでなく、地域性、教育的役割、特別支援、幼小連携、家庭・地域を支える機能等を評価項目に含めること。
- ・「15人」という適正規模基準について、その根拠と妥当性を改めて検証すること。
- ・小集団による教育が子どもの育ちに与える影響について、専門的な知見も踏まえて検証すること。
- ・3年保育、午後保育、保育時間の延長、給食等を実施した場合の園児数・保護者ニーズへの影響を検証すること。
- ・改善策を実施した場合の潜在的需要について、希望調査等も含め、実際の保護者ニーズを把握してから存廃を判断すること。
- ・閉園後の受け皿について、受入可能人数だけでなく、支援体制、人員配置、通園、安全、費用等を具体的に検証すること。
- ・公立幼稚園を選択する家庭の多様な事情を踏まえ、短時間勤務、きょうだい、持病、介護等を含む家庭への影響を検証すること。
- ・私立幼稚園を受け皿とする場合、特別支援の受け入れ状況、加配、人材確保、保護者の理解、財政支援の持続可能性等を具体的に検証すること。
- ・各園の存廃を判断する際には、園児数や地理的条件だけを基準とせず、保護者や現場の声、教育環境、地域とのつながり、保護者ニーズ等も含め、多面的かつ同一の観点から各園を比較・検証すること。
- ・これまで提出された意見・要望について、審議における取扱いと反映状況を明確にすること。
- ・今後の募集・閉園時期について、保護者の進路選択に十分配慮し、拙速に決定しないこと。

6. おわりに

私たちは、私立幼稚園を否定するものではありません。また、少子化や行政資源の制約があることも理解しています。

その上で、今回の再編については、「園児数が減少しているから閉園する」という結果だけではなく、なぜ園児数が減少しているのか、どのような改善策が可能なのか、公立幼稚園が果たしている役割をどう評価するのか、閉園後に本当に同等以上の教育・支援環境を確保できるのかまで含めて検討する必要があると考えます。

3園には、それぞれ異なる地域性や教育的特徴があります。末成幼稚園には地域とのつながり、幼小連携、現在も一定数の園児が通う実績、1,359筆の署名に示された保護者・地域の声があります。丸橋幼稚園には少人数・異年齢教育の良さ、特別な支援を必要とする子どもを受け入れてきた実績、保幼小中の連携があります。宝塚幼稚園には、子ども家庭支援センターの育児サークル等ともつながる地域の子育て拠点としての役割、特別支援を必要とする子どもを受け入れてきた実績、交通利便性や公共施設との近接性があります。

だからこそ、3園を単純に園児数や一つの基準だけで比較するのではなく、それぞれの園が現在どのような役割を果たし、どのような家庭に必要とされているのかを同じ観点から丁寧に検証していただきたいと思います。

保護者が求めているのは、単に結論を変えてほしいということだけではありません。子どもたちにとって何がより良いのかを、必要な情報を共有しながら十分な時間をかけて検討し、その過程と判断の根拠を示していただくことです。

そして、公立幼稚園に課題があるのであれば、まず改善する。改善した上で、実際の保護者ニーズや利用状況を検証する。その結果を踏まえて、初めて存廃を判断する。そのような順序で、今回の再編を考えていただきたいです。

どうか、閉園という結論を急がず、存続・改善という可能性も含めて、3園それぞれの教育的価値と地域の実情を踏まえ、最後まで慎重に検討してください。

子どもたちにとって本当に良い公立幼児教育とは何なのか。そのことを起点に、宝塚市のこれからの幼児教育のあり方を考えていただくことを、心からお願いします。

【整理の対象】

- ・PTA会長会として提出した申入れ等
- ・各園保護者から提出された要望書・意見書・嘆願書等
- ・各園に関する署名活動
- ・保護者説明会で出された質問・意見
- ・教育環境審議会に関する整理資料
- ・各園から示された意見陳述書等

※本資料は上記資料・発言および今回寄せられた個別の保護者意見を整理したものであり、すべての保護者が全項目について同一の意見であることを示すものではありません。個別の体験や認識については、事実確認が必要な事項を断定せず、保護者等から示された意見として整理しています。

丸橋幼稚園の存続および公立教育環境の維持に関する要望書

令和8年7月22日

宝塚市長 宛

要望趣旨

私どもは、丸橋幼稚園に子どもを通わせていた保護者および地域住民です。

宝塚市において検討・進められている丸橋幼稚園の閉園・統合方針に対し、深い懸念と存続を求める切実な願いを抱いております。

この度、当園に深く関わってきた保護者・地域住民19名より、丸橋幼稚園の存続や公立幼稚園のあり方に関する生の声（体験談・意見）が集まりました（詳細は添付の「別紙意見書」を参照）。

集まったお声からは、単に「家から近い」という利便性にとどまらず、「私立園等で受け入れが難しい発達特性のある子への全手厚い見守り」「少人数・異年齢保育だからこそ育つ自己肯定感や思いやりの心」「隣接する丸橋小学校との連携による『1年生の壁』の解消」「地域コミュニティの拠点・安らぎとしての価値」など、園児数という「数字」だけでは到底測ることができない、公立幼稚園ならではの重要かつ代替困難な役割が明確になりました。

つきましては、園児数のみを根拠とした安易な閉園判断を一度立ち止め、地域の子育て環境・発達支援のセーフティネットを守るため、下記のとおり要望いたします。

1. 園児数（数字）のみを判断基準とした安易な閉園計画の見直し

単に「園児数が少人数だから保育が成り立たない」と断定するのではなく、少人数・公立だからこそ実現できている「きめ細やかな個別支援」「自然体験教育」「異年齢での成長促進」といった本質的な教育的価値を正當に評価し、存続の道を再検討してください。

2. 発達支援（インクルーシブ教育）および公立ならではのセーフティネット機能の維持

私立園や保育園で受け入れが難しかった子どもや、発達に特性のある子どもを温かく受け入れ、劇的な成長を引き出してきた実績があります。配慮が必要な子どもや、子育てに悩む保護者の心に寄り添う公立幼稚園ならではのセーフティネット機能を守ってください。

3. 「3歳児保育（3年保育）」および「給食」の導入による「公立こども園」への再編・アップデート

現在の「2年保育・給食なし」という条件が、入園を検討するご家庭の大きなハードルとなっています。ニーズに合わせた3年保育や給食の導入（公立こども園化など）を行えば利用希望者は確実に増加します。安易な削減・閉園ではなく、時代に即した環境整備を行ってください。

4. 隣接する丸橋小学校との「幼小連携」および「地域コミュニティ機能」の継続

小学校に隣接し日常的に交流できる環境は、子どもたちの就学不安を解消し、スムーズな進学を支えています。また、園児たちの笑い声や地域の行事を通じた繋がりは地域全体の活気と安心感を生み出しており、この貴重な教育・地域基盤を失わせないでください。

5. 中途入園・転入児・私立不合格児の「受け皿機能」の維持

近隣の新築住宅増加や自衛隊等の転勤族のご家庭、他園の環境に馴染めなかった子どもの受け皿として、年間を通じて柔軟に対応できる公立幼稚園の存在は地域にとって不可欠です。

19名のお声から見た丸橋幼稚園の5つの核心的価値

1. 手厚い発達支援と親への心理的ケア（セーフティネット）

発達障害や特性のある子が全教職員に見守られ、劇的な言葉の発達や人間的成長を遂げています。また、孤立しがちな保護者の心に寄り添う「親育ての場」としても機能しています。

2. 広々とした環境でののびのびとした体験型教育

園庭での遊びや、畑・生き物のお世話を通じ、子どものペースに合わせた豊かな感性、自主性、協調性を育んでいます。

3. 隣接小学校とのスムーズな接続と安心感

共通の通学路での登園や日常的な小園交流を通じ、就学への不安が解消され、同じ友達と安心して小学校へ進学できています。

4. 少人数・異年齢保育が育む「思いやりと自己肯定感」

年長児が年下の子を自然にお世話する経験を通じ、責任感と思いやりが育ち、小学校進学後も高く評価される人間性の土台が形成されています。

5. 地域を明るく包む子どもたちの歓声と温かいコミュニティ

園から聞こえる子どもたちの笑顔や笑い声は近隣住民の癒やしとなっており、保護者同士の強い信頼関係を含め、地域コミュニティの核となっています。

『丸橋幼稚園の存続を求める保護者・地域住民の意見書』 (全19名分の提出者一覧、要約、および個別の生の声全文)

丸橋幼稚園には家から近いので通わせてもらっていました。いつの間にか友達もたくさんでき、毎日元気に登園していました。たまに近くを通ると子供たちの元気な笑い声が聞こえてきます その声を聞くとなぜか微笑んでしまいます。園児たちの声をなくさない為にも丸橋幼稚園の存続を願います

・丸橋幼稚園を選んだ理由

広々とした園庭や、畑や生き物のお世話もでき、遊びを中心とした体験を通して、豊かな感性や協調性を育むことができる、子どものペースに合わせたのびのびとした環境を大切にしているところが園を選んだ理由です。

・通わせて良かったと思う事

通う小学校がすぐ横にあるので、通学路など幼稚園のうちに慣らすことができ小学校との交流もあるので幼稚園のうちに小学校への子どもの心構えができ安心できます。

丸橋幼稚園と丸橋小学校の子ども達が交流することは地域のコミュニケーションに必要だと考えます。

選んだ理由：校区内の公立だったから。

良かった事：長女の登園拒否の際も細やかに配慮してくれた。みんな良い先生でした。

要望：卒園した幼稚園が無くなるのは寂しいので残して欲しい

〇丸橋幼稚園を選んだ理由

長尾と丸橋の交流に参加して、長尾では萎縮していたのですが、丸橋では自分らしく伸びのびと笑顔でとても楽しんでいたことが決め手でした。

丸橋幼稚園だからこその雰囲気、空気感がありこちらに通えて本当によかったと思っています。

〇通わせてよかったこと

異年齢保育で年長さんが年少さんのことを気にかけてお手伝いしていたり、思いやりの心や責任感などお互いの姿を見て共に成長していると感じました。息子は障害があるのでたくさん助けてもらってみんなを頼りにしていましたが、同年齢のお友達のマネをしたり年少さんががんばっている姿を見て自分でやってみようと思うこともすごく増えて年長の1年だけでしたが想像を遥かに超えて成長しました。

先生方が子供たち一人一人を良く見てくださっていて、障害があっても運動会や音楽会などみんなと同じように参加でき小学校でもこの経験が大きな自信に繋がっています。伸びのびと自分らしく、また色々なことに挑戦できたことも本当に嬉しく思っています。先生方の支え、お友達の優しさ、保護者の方や地域の方の見守りのおかげです。この地域の方々はみなさん優しくこの地域だからこんなに良い雰囲気なのだろうなとも思います。隣に小学校と保育園があるので、交流の場も多く色々な経験をさせていただき、どれもとても楽しく参加してお話もしてくれるようになりました。保護者同士もみんな仲良く、保護者参加のイベントも親も楽しめて良い思い出になっています。

○要望

丸橋幼稚園は2年保育なので、保育園や3年保育の幼稚園に比べると条件的に入りにくいことがあります。もし3年保育であれば絶対にもっともっと園児が増える園だと思っています。丸橋幼稚園は地域にとって必要不可欠です。

園区の長尾幼稚園の交流も参加しましたが、園の雰囲気は全然違いました。中山台や長尾南が閉園して我が家の地域の公立幼稚園はすでに選べる所が少ないです。これ以上選択肢を減らさないでください。

公立幼稚園に通えたから、私も就学前は働かずにすみ、心に余裕が生まれて子供と向き合うこともできました。

小学校に毎日楽しく通えているのは丸橋幼稚園での経験が息子にとって非常に大きな土台となり自信に繋がったからです。

息子はもし長尾しか選択肢がなければ幼稚園に通うことは諦めていました。

再度になりますが丸橋幼稚園は地域にとって必要不可欠です。丸橋幼稚園の存続を求めます。

家が近いのもありますが娘を通してマイナスイメージが全く無く息子も丸橋幼稚園に通わせたいと思ったからです。

人数が少ないのでしっかり見てもらえている安心感もありますし先生方と話せる機会も他の幼稚園に比べて多いと思うので懇談とかでなくても相談しやすく幼稚園での様子も教えていただけて良かったです。

特性がある子を受け入れている点もそれぞれの成長に良い影響を与えていると感じましたし少人数なりの良さが本当に多い幼稚園ですので閉園するべきでは無いと強く感じています。

丸橋幼稚園を選んだ理由

・幼保小のつながりが多く、交流の機会がたくさんあり、小学校への憧れや期待がもてる。

・幼稚園から同じ小学校へ進学する友達が多く、つながりがあり、子どもも親も安心できる。

通わせて良かったと思う事

・みんなの前で話すことが苦手だったけど、自分の考えや意見を言えるようになった！

・異年齢交流が多く、年長としての自覚が芽生えた！

・少人数なので、きめ細かく一人ひとりをみてもらえた！

・自分たちで考えたことを試したり、工夫したりできる環境が整っていた！

・登園降園時に先生や保護者と毎日顔を合わせるので、小さなことでも相談しやすい！

・少人数だからこそ発表会とか一人ひとりの活躍の場が多く、自信につながった！

・自分の子どもだけでなく、お互いの子どもの成長を一緒に見守るような温かい雰囲気が良かった！

丸橋幼稚園を選んだ理由

私立幼稚園 1園に入園希望していたが、園の方針に合わず入園不可能となった為

通わせて良かったと思う事

自宅から徒歩で通える範囲の園という事

また、少人数の幼稚園であるが幼稚園生活、療育、習い事の経験を経て就学に向けた準備が出来た事

要望

療育を受けながら通っている園児とその保護者にとって丸橋幼稚園は必要である

私立幼稚園の抽選に落選し、入園不可能となった子の受け皿ともなるので丸橋幼稚園は必要である

よって丸橋幼稚園の閉園は反対します。

閉園反対です！

私自身も丸橋幼稚園を卒業して人生の本当に楽しい思い出として残っていること、周りの友人や家族が丸橋幼稚園を利用してみんなが丸橋に入れてよかったと聞いていたので子ども2人を通わせました。先生と子どもたちとの距離の近さ、きめこまやかな保育、幼稚園ならではの遊びやコミュニケーションをまなんで心が豊かになること、

小学校に上がるのに周りの環境に自然に慣れること、親も含めて地域の方々と交流をもてること、子どもたちが小学校に上がるにわたって必要最低限に必要なこと先生の話聞く、立ち歩かないなどの能力を自然を身に付けられる。など本当にいいことしかありません。

要望としては小学校の連携をとって給食を学校に週に1回でも食べに行って

給食になれるようにしてもらえとなお嬉しいです。

急な編入などもいつでも受け入れてくれる丸橋幼稚園は本当に必要です！少子化にも繋がると思います。

無くさないでください。

閉園反対です。

私が丸橋幼稚園を選んだ訳は子どもの発達に遅れがあったからです。私立では補助の先生がつかないことがほとんどだと聞き小学校横の公立に決めました。

通わせて良かったのは、そのまま持ち上がりで同じ小学校に通えた事が本当に良かったです。子どもの特性も周りのお友達が理解をしてくれて楽しく小学校にも通える事ができました。

補助の先生もつけてもらい本当に助けられました。

上の子は私立に通わせたましたが、二人目の子が障がい丸橋幼稚園に通い公立ならではの小学校の繋がり良さに引かれ三人目丸橋幼稚園に通わせました。

要望としては、子ども園になって3年保育で給食があればよかったと思います。

先生が子供の目線になって沢山遊んでくれたり
集団生活を送るための指導をしてくれたりしてくれるのを「くまさんくらぶ」などで拝見して安心して預けられると思ったから丸橋幼稚園を選ばせてもらいました

小学校へ通う時のお友達とも早くからコミュニケーションも
とれるし先生方が一人一人の性格をきちんと把握してくれて遊び方もその子に合わせてしてくれ子供も喜んで毎日過ごしていました

その子の個性も伸ばせてもらえて良かったです。
体力もすごくいついてすこしのことで疲れず元気一杯で過ごしてくれて丸橋幼稚園に通わせてよかったと思います。
楽しい思い出が沢山で幼稚園からずうと友達とも続いていて仲良しでいてくれています。
なので閉園はしないでこのまま地域の為に存続してほしいとおもいます。

歩いて親子で登園するので体力もつき、登園時の様子も分かり、隣接する小学校に幼稚園で過ごした友達と一緒にいけるので、開放されている時間が多かったのも、園での子どもの様子が分かり、成長の様子も見れて多くの思い出もできた。

また、トラブルの時は、親の繋がりもあったので早くに自分たちで解決できた。一緒に2年過ごした子ども同士は、今も交流が続いていて丸橋幼稚園に通わせてよかったと改めて思う。

少子化で園に集まる子どもは少ないかもしれないけれど、私立とは違う、公立ならではの教育をぜひ続けて欲しい

■
【選んだ理由】

- ・進学予定の小学校の隣にある幼稚園だから（入学への不安軽減のため）

- ・のびのびとした雰囲気よかったから

【良かったこと】

- ・先生方に丁寧に見てもらえたし、のびのびと過ごせた。

- ・子どもたちが自ら考えて作り出す行事のあり方がとてもよかった。

- ・小学校の通学路を歩いて登園し、すぐ横の小学校の様子を普段から見られること、小学校との交流があることから、入学への不安が軽減され、スムーズに進学できた。

- ・保護者同士や先生方とのつながりが密で、保護者も子どもも安心して過ごせた。

【要望・意見】

ただ園児数が少ないから閉園するという形ではなく、せめて公立のこども園を作るなど、体制を整えるなどしてから閉園を進めるべきではないか。

■
年長の8月に宝塚市に引越して来たので、同じ小学校に通う友達が欲しいと思い選びました。

先生と子どもたちが輪になって話し合う機会が多く、自分だけでなくお友達の意見や気持ちをお互いに大切にすることをしっかりと教えていただきました。

虫取りや折り紙で作った飛行機を飛ばしたり、自主的に遊ぶ事も大切にしてくださり、のびのびと毎日とても楽しそうに通っていました。

行事ごとにもとてもよく取り組んでくださり、子どもたち一人一人がとても輝いていました。

園児の数は少ないですが、丸橋幼稚園は逆にそれが強みだと思えます。一人一人に寄り添い、手厚い保育をしていただきました。

- ・未就園児親子教室のくまさんクラブもとても楽しかったです。なかなか家ではできない遊びを近所の幼稚園でしてもらえるのがありがたかったです。地域の保護者達の為にもこのまま丸橋幼稚園は存続してほしいと思います。

・先生が目が行き届く環境だと思った。

・先生方が園児一人一人としっかり向き合ってくれて、内気だった息子が先生の信頼関係を築けて前向きになって良かった。異年齢保育のおかげで、年長だった息子は年下の子に優しく、お手本になる事を意識するようになり自信に繋がって良かった。また年中の息子は、年長さんを近くで見て、何事にも意欲的に行動するようになって良かった。

・少人数だけど、少人数だからこそできる保育があり、子供の成長を促してくれる丸橋幼稚園の閉園は反対です。

★丸橋幼稚園を選んだ理由

→小学校と隣接しているので双方の行事等で便利。幼稚園で仲良くなった友達がそのまま小学校も同じになれる

★通わせてよかったと思うこと

→親子共にたくさん知り合いができた

★要望

→週何回かでもいいので給食があればなおよかったかなと思う

歩いて通える距離に幼稚園があるのはとても利用しやすく、台風とか災害時のお迎えも近いのですぐ行けるのがとても助かりました
私立のバス通園もいいけど事故のリスクもある中、手を繋いで一緒に登園できて親子のコミュニケーションもとれとても楽しくお話もできました

だんじりとか、地域の行事とかにも参加させてもらえたり
子ども達の楽しい記憶になっています
これからも存続おねがいします

・兄弟で通っていました。

長男の時は自宅（山本野里）から通える範囲が丸橋幼稚園だったのと何かあればすぐに迎えに行ける、将来通う予定の小学校のすぐ隣なので子供が通いやすいと思ったので選びました。

次男は兄が通っていてよかったのでそのまま通いました。又次男は発達の面でサポートが必要なこと私立幼稚園では対応が難しいかもしれないので公立幼稚園を選ぶことしました。

・長男次男ともにいいお友達に恵まれたことや小学校がすぐ隣なため、登校へ新しい道を覚えなくてもすむこと。

又お互いの交流が多く入学前から小学校の様子をしれて、学校に慣れてから通えるのは良かったと思います。

・丸橋幼稚園が閉園すると自分が住んでいる場所からは長尾幼稚園も近隣私立は遠くなります。車の通園を許可しても車がない方は多いとは思いますが。又我が家の近くには新築予定の住宅が多く建つ予定もあり、自衛隊の方が転勤で引っ越しされた際途中入園出来る幼稚園がないのは困ることになると思いますのでこのまま残して頂くことを希望しています。

又宝塚は公立幼稚園で三年保育をしている園が少ないのも園児の数を減らしていると思います、三年保育や幼保一体にしていだきたいと思います。

選んだ理由：自分の子供が在園してた時は私立無償化前だったので、費用が安くありがたかった事。また、小学校の隣の立地で、あらかじめお友達を作ってスムーズに入学してほしいという思いがありました。

良かった事：同じ幼稚園のお友達とそのまま小学校に上がったため、子供が不安なく小学校生活に馴染めた事。先生方が温かく手厚く見守って下さった事も大きな財産と感じています。保護者同士の繋がりもとても良かったです。

要望：少人数ならではの温かい保育の価値や、子育て世帯の選択肢を守るためにもぜひ存続をお願いしたいです。

丸橋幼稚園を選んだ理由

私の息子は2歳の時に発達障害の診断を受けました。

当時は保育園を希望していましたが、受け入れが難しいと言われる事が多く、どうすればいいのか悩んでいました。

そんな中、発達支援の相談員の方から「丸橋幼稚園は少人数なので加配の先生を配置できない可能性はあるけれど、一人ひとりに目が届きやすく、のびのびと園生活を送れると思います」と勧めていただき入園を決めました。

丸橋幼稚園に通わせてよかったと思うこと入園当初は同学年が6名と少なく、加配の先生も付けられないと聞いていたため、不安な気持ちでいっぱいでした。

しかし、その不安はすぐに安心へと変わりました。

担任の先生だけでなく丸橋幼稚園の先生を全員がそのことを親身になって見守り個性や特性を理解しようと寄り添ってくださいました。

園全体で子どもたちを見守り育ててくださっていたので安心して預けることができました。

入園前は発話もままならない息子が幼稚園生活を送る中で少しずつ言葉が増え、今では「おしゃべりさん」と言われるほど成長しました。

先生方が息子のペースを大切にしながら根気強く関わってくださったおかげだと感じています。

また、少人数だからこそ異年齢との関わりも深く、年長になると自然と年中さんのお世話をする姿が見られるようになりました。思いやりや責任感が育まれ、とても子どもの成長につながったと感じています。

在園中はお友達同士の大きなトラブルもなく、穏やかで、健やかな環境の中で毎日楽しくのびのび過ごすことができました。

その経験は小学校生活にもつながっており、小学校の先生方からは「とても優しく、お友達のことをよく気かけられる子ですね」と言っていていただくことがあります。

丸橋幼稚園で過ごした時間が息子の優しさや、思いやりの土台になっていると感じています。

そして何より、先生方は子どもだけでなく親である私にも寄り添ってくださいました。

発達障害のある子どもを育てる中で不安や悩みを抱えることも多くありました。そのたびに気付いて話を聞いてくださり、一緒に息子の成長を喜び支えてくださいました。

私にとって丸橋幼稚園は子どもだけが成長する場所ではなく親である私自身も支えられ、一緒に育てていただいた場所です。

要望

園児数だけを理由に「保育として成り立たない」と判断するのではなく、少人数だからこそ実現できる教育や保育の価値にも目を向けていただけたらと思います。

少人数だからこそ、発達に特性のある子どもを含め、一人ひとりにしっかりと目が行き届き、それぞれの個性や成長に寄り添った関わりができると思います。

数字だけでは測ることができない価値が丸橋幼稚園にはあり、私たち親子もその環境に支えられ、安心して幼稚園生活を送ることができました。

私たちのように丸橋幼稚園だからこそ安心して子どもを預けることができた家庭があることをぜひ知っていただきたいです。

また、発達に特性のある子ども持つご家庭にもこのような公立幼稚園があることを知る機会を作っていただきたいです。

私たち親子が丸橋幼稚園に救われたように、これから先も必要としている子どもや保護者のためにこの温かい環境を残していただけることを心から願っています。

閉園については慎重にご検討いただきますようお願い申し上げます。

宝塚市の公立幼児教育の在り方に関する要望書

宝塚市長 森 臨太郎 様

平素より、市政運営並びに教育・子育て施策の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。また、市長が掲げておられる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」や、誰一人取り残さないインクルーシブ教育、自ら考え学ぶ探究的な教育の推進に、私たちは大きな期待を寄せています。今回の公立幼稚園再編の議論を契機として、公立幼稚園全体の在り方、そして宝塚市の公教育の在り方を改めて見つめ直し、未来の子どもたちのためにより良い教育環境を築いていただきたいとの思いから、本要望書を宝塚幼稚園要望書と併せて提出いたします。現在、公立幼稚園再編の方針が示されたことにより、保護者の間には大きな戸惑いと不安が広がっています。また教育委員会の進め方についても場当たり的で誠実さが感じられません。子どもたちは今後も安心して地域で教育を受けられるのか、公立幼稚園という選択肢は残されるのか、支援を必要とする子どもたちの受け皿は確保されるのか—多くの保護者が将来への不安を抱えています。私たちは、この不安を単なる反対の声としてではなく、宝塚市の未来の教育を共に考える機会として受け止めていただきたいと願っています。

1 公立幼稚園の基本方針を見直してください

今回の公立幼稚園再編は、約10年前に策定された「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」をもとに進められています。しかし、基本方針の策定以降、宝塚市の就学前教育を取り巻く環境は大きく変化しました。少子化の進行に加え、共働き世帯の増加、保護者の就労形態の多様化、幼児教育・保育の無償化、3年保育を前提とした園選びの一般化など、保護者のニーズは大きく変化しています。さらに、宝塚市が現在推進しているインクルーシブ教育や探究的な学びなど、公教育に期待される役割も、この10年間で大きく広がりました。行政計画は、一度策定したら変えないものではなく、社会情勢や市民ニーズの変化に応じて検証し、必要に応じて見直すことで初めて実効性を維持できるものと考えます。私たちは、10年前に策定された基本方針そのものを否定しているのではありません。しかし、その方針が策定された当時の前提条件が現在も妥当であるかについて十分な検証が行われないまま、一部の基準のみを根拠として公立幼稚園の再編を進めることには、大きな疑問を感じています。また、園児数の減少についても、「適正規模に達していない」という結果だけを見るのではなく、その背景にある原因を検証することが重要ではないでしょうか。例えば、公立幼稚園では長年にわたり2年保育を維持してきましたが、一方で保護者の多くは3歳からの入園を希望しています。実際に3年保育を実施している私立幼稚園ではもちろん、公立幼稚園でも3歳児の入園児数が一定数いるという実態があります。つまり、現在の園児数は、少子化だけではなく、公立幼稚園の制度と保護者ニーズとの間に生じているミスマッチの影響も受けられていると考えられます。このような社会情勢の変化や園児数減少の要因について十分な検証を行わないまま、根拠が不明確な15人未満という人数を基準として公立幼稚園の再編を進めることは、判断の前提として十分とは言えないと考えます。私たちは、まず現在の社会状況や保護者ニーズ、そして宝塚市が掲げる教育理念を踏まえ、公立幼稚園の基本方針そのものを見直していただきたいと強く要望いたします。

2 宝塚市が目指す教育は、すでに公立幼稚園で実践されています

市長が掲げるインクルーシブ教育や探究的な学びは、将来の目標ではなく、公立幼稚園で日々実践されています。丸橋幼稚園は、私立幼稚園から転園・あるいは入園の機会が得られなかった加配・特性を持つ子どもを受け入れてきており、地域の公立幼稚園にしか果たせない重要な機能を担っています。具体的な例を挙げると以前通っていた幼稚園では園児数が多く、教員の努力だけでは目が行き届かない事情で転園されてきた子どもや、私立幼稚園の入園を断られた子どもを受入れ、小学校へと教育をつなぐ貴重な教育機関としての役割を果たしています。また在園児数の減少に対して異年齢クラスを導入することで、年長の子どもたちは年下の子どもの見本となるべく手本を見せたり、手伝う姿が見られ責任感や年長者としての自覚を養う機会を創出しています。更に年中の子どもたちは年長の子どもの振る舞いを見て、自身の目標に据えたりなりたい姿を自分に重ね自ら努力する姿を見ることが出来ます。私たちの子どもも、昨年在籍されていた加配対応が必要な年長の子どもを見て、活発に挑戦する姿に憧れを抱き、目標に据えて今年は年長として年中の子どもたちの見本になれるよう頑張っています。異年齢は在園児数減少における一時的な処置であることは承知していますが、少人数であるからこそ実現できたこのような教育機会は非常に貴重なものであり、在園児数のみで教育品質の低下を掲げる市教育委員会の方針は疑問を抱きます。

丸橋幼稚園の園児たちは互いに刺激しあい、共に遊び、共に学び、共に育っています。保幼小中連携事業により、時には公立保育園の子どもたちと触れ合い刺激され、時には小学校の子どもたちと交流したくさんの発見をし、時には中学校のお兄さん、お姉さんたちと触れ合い、自身になりたい姿を見つけています。丸橋幼稚園は地域に根差した交流が行われており休日に子どもの名前を呼んでくれるお兄さんやお姉さんが多くいます。このような地域に交流が活発に行われる環境の構築は、保幼小中連携事業を推進している公立幼稚園だからこそ実現できているものと考えます。また、公立幼稚園では、子ども自身が身近な環境から課題を見つけ、自ら考え、友だちと協力しながら学びを深める探究的な活動が日常的に行われています。さらに、公立幼稚園では教職員の異動があっても教育の質が維持され、高い専門性を持った先生方が一人ひとりに寄り添った教育を実践されています。この教育の質は、公教育だからこそ市全体で保障できる大切な財産であると私たちは考えています。

3 園児数減少への対策として、3年保育を試行してください

現在、公立幼稚園の園児数減少が再編の理由の一つとされています。しかし、その背景には、保護者の多くが3歳からの入園を希望している現状があります。実際に市内の3年保育実施園では3歳児の割合が高く、4・5歳からの入園は極めて少ない状況です。このことは、2年保育では保護者の選択肢に入りにくくなっている現実を示しています。丸橋幼稚園では未就園児を対象としたくまさんクラブという月1回の幼稚園体験クラスを実施していますが2年保育であることが理由で丸橋幼稚園を断念する家庭も実際に存在します。また、園児数のみを理由として判断する前に、廃園対象園で3年保育を試行し、その効果を検証することが必要ではないでしょうか。私立幼稚園への配慮から3年保育を断念しているという市教育委員会の主張はそもそも子どもたちの教育を中心に据えた見解ではなく到底受け入れられるものではありません。私たちは、まず試行し、その結果を踏まえて議論していただくことを強く要望します。

4 公立幼稚園を必要としている家庭があります

私たちは私立幼稚園を否定しているわけではありません。一方で、公立幼稚園だからこそ安心して子どもを預けられる家庭があることも事実です。実際に、私立園から公立園へ転園してきた子どもや、様々な事情から公立幼稚園を選択している家庭があります。

車での通園も限界があります。そもそも駐車スペースが確保されていないことにより安全な通園環境が整備されていない、車を通園に使用できない家庭があることを考慮されていない実情があります。丸橋幼稚園は同地区で唯一の公立幼稚園です。

私立幼稚園での入園を断られる子ども、加配の対応が必要な子どもを受け入れる丸橋幼稚園がなくなると、今まで丸橋幼稚園が受け入れてきた子どもたちはどこに通えばいいのでしょうか？最も近い公立幼稚園は長尾幼稚園となり通園距離が2.1kmも増えます。子どもの足では通えません。

こうした現状を踏まえると、私立幼稚園で十分な受け皿が整ったとは言えない中で公立幼稚園を縮小することは、子どもたちに不利益をもたらす可能性があります。

また代替選択肢として掲げられる保育施設の拡充では両親の就労条件によって入所することが出来ない等、子どもたちにとって教育機会が損なわれる可能性もあります。

更には地区内で今幼児教育を受けていない子どもたちへの説明がない事や、幼児教育の受け皿がないリスクが野放しになっている環境を放置した現状では地区内唯一の公立幼稚園の閉園判断は時期尚早と考えます。

おわりに

私たちは、幼稚園だけを守りたいのではありません。宝塚市が目指すインクルーシブ教育と探究的な学びを、就学前教育から未来へつなぎ、公立幼稚園全体が持続的に発展していくことを心から願っています。ぜひ一度、丸橋幼稚園の取組を客観的に評価いただく機会を設けて下さい。丸橋幼稚園の教職員の皆様がどれだけ子どもたちの教育に心血を注ぎ、工夫されているか、子どもたちがその教育を受けて成長しているか、保幼小中連携事業により地域の教育機関と以下に連携しているか、公立幼稚園の教育的価値がかけがえのないものであることをご理解いただけること確信しております。また、現場で子どもたちを見守り、ともに子育てをしている私たち保護者の思いも、公立幼稚園の将来を考える上での大切な一つの声として受け止めていただければ幸いです。どうか現場をご覧いただき、その上で宝塚市の公立幼児教育の未来をご判断いただけますよう心よりお願い申し上げます。

丸橋幼稚園 保護者代表

丸橋幼稚園 保護者一同

宝塚市の公立幼児教育の在り方に関する要望書

宝塚市長 森 臨太郎 様

平素より、市政運営並びに教育・子育て施策の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

また、市長が掲げておられる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」や、誰一人取り残さないインクルーシブ教育、自ら考え学ぶ探究的な教育の推進に、私たちは大きな期待を寄せています。

私たち保護者も、その理念に深く共感しております。

今回、公立幼稚園再編の議論が進められる中で、私たちは改めて公立幼稚園が果たしている役割について考える機会となりました。

私たちは、特定の園を残してほしいという思いだけで本要望書を提出するものではありません。

宝塚市が目指されている教育を、就学前教育の段階からどのようにつないでいくのか。そして、未来を担う子どもたちにとって本当に必要な教育環境とは何かを、市とともに考えていただきたいという思いから、本要望書を提出いたします。

1 公立幼稚園は、宝塚市が目指す教育を実践している場です

公立幼稚園では、子ども一人ひとりの個性や成長に寄り添いながら、安心して過ごせる教育環境がつくられています。

少人数だからこそ、子どもの小さな変化や成長を丁寧に見守ることができ、一人ひとりの個性を大切にしたいきめ細かな関わりが実現しています。

子どもたちは互いの違いを自然に受け入れ、ともに遊び、ともに学びながら成長しています。

また、身近な環境から興味や疑問を見つけ、自ら考え、友達と協力しながら学びを深める探究的な活動も日々行われています。

さらに、公立幼稚園では地域の小学校とのつながりを大切にした教育活動も行われています。

小学校が隣接している環境を生かし、日頃から小学生との交流の機会があり、子どもたちは年齢の異なる友だちとの関わりの中で、憧れや思いやりの気持ちを育んでいます。

特に高学年の児童との交流は、子どもたちにとって小学校生活への安心感や期待につながり、入学後の人間関係づくりにも良い影響を与えています。また、幼稚園から小学校への移行においても、日頃から子どもの様子や成長過程を共有できる環境があり、必要な支援や配慮について円滑に情報をつなぐことができます。

このような幼小連携は、子どもたちが安心して次の学びへ進むための大切な基盤であり、地域に根ざした公立幼稚園だからこそ実現できる大きな価値であると考えています。

これらは、市長が掲げられているインクルーシブ教育や探究的な学びそのものであり、公立幼稚園は宝塚市が目指す教育理念を実践する大切な場であると私たちは考えています。

2 公立幼稚園の基本方針を、現在の状況に合わせて見直してください

今回の公立幼稚園再編は、約10年前に策定された「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」をもとに進められています。

しかし、この10年間で、就学前教育を取り巻く環境は大きく変化しました。

少子化の進行、共働き世帯の増加、保護者の就労形態の多様化、幼児教育・保育の無償化、3年保育を前提とした園選びの一般化など、保護者のニーズは大きく変化しています。

また、宝塚市が目指す教育の方向性も、インクルーシブ教育や探究的な学びなど、新たな役割が求められています。

私たちは、10年前に策定された基本方針そのものを否定しているわけではありません。

しかし、社会状況や教育への期待が大きく変化した現在、その前提条件が今も適切なのかを改めて検証し、必要に応じて見直すことが必要ではないかと考えます。

園児数という結果だけを見るのではなく、その背景にある要因や、公立幼稚園が果たしている役割も含めて総合的に判断していただくことを要望いたします。

3 園児数減少への対策として、3年保育の試行をお願いします

現在、公立幼稚園の園児数減少が再編の理由の一つとされています。

しかし、その背景には、多くの保護者が3歳からの入園を希望している一方で、公立幼稚園では長年2年保育を基本としてきたという制度とのミスマッチもあるのではないのでしょうか。実際に3年保育を実施している園では3歳児の入園が多く、公立幼稚園でも3歳児募集を行った園では一定数の入園がありました。

園児数だけを見て判断するのではなく、現在の保護者ニーズに合わせた取り組みを試み、その効果を検証することが必要だと考えます。

そのため、再編対象園などにおいて3年保育を試行し、その結果を踏まえて今後の公立幼稚園の在り方を検討していただくことを要望いたします。

4 公立幼稚園を必要としている家庭があります

私たちは、私立幼稚園を否定しているものではありません。

一方で、公立幼稚園だからこそ安心して子どもを通わせることができる家庭や、さまざまな事情から公立幼稚園を選択している家庭があります。

公立幼稚園には、地域の中で子どもたちを育て、多様な子どもたちを受け止める大切な役割があります。その役割や必要性を十分に検証することなく縮小を進めることについては、慎重にご判断いただきたいと考えます。

おわりに

私たちは、特定の園だけを守りたいという思いで活動しているではありません。

宝塚市が掲げる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」を、就学前教育の段階から未来へつなぎ、公立幼児教育がより良い形で発展していくことを願っています。

市長におかれましては、ぜひ一度、現場へ足をお運びいただき、子どもたちの姿、先生方の関わり、そして保護者の思いをご覧くださいれば幸いです。

数字や資料だけでは伝わらない、公立幼稚園の教育の価値があります。

現場をご覧くださいいた上で、宝塚市の公立幼児教育の未来についてご判断いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

未成幼稚園保護者有志 代表

宝塚市の公立幼児教育の在り方に関する要望書

宝塚市長 森 臨太郎 様

平素より、市政運営並びに教育・子育て施策の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。また、市長が掲げておられる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」や、誰一人取り残さないインクルーシブ教育、自ら考え学ぶ探究的な教育の推進に、私たちは大きな期待を寄せています。

今回の公立幼稚園再編の議論を契機として、公立幼稚園全体の在り方、そして宝塚市の公教育の在り方を改めて見つめ直し、未来の子どもたちのためにより良い教育環境を築いていただきたいとの思いから、本要望書を提出いたします。

現在、公立幼稚園再編の方針が示されたことにより、保護者の間には大きな戸惑いと不安が広がっています。また教育委員会の進め方についても場当たり的で誠実さが感じられません。

子どもたちは今後も安心して地域で教育を受けられるのか、公立幼稚園という選択肢は残されるのか、支援を必要とする子どもたちの受け皿は確保されるのか——多くの保護者が将来への不安を抱えています。

私たちは、この不安を単なる反対の声としてではなく、宝塚市の未来の教育を共に考える機会として受け止めていただきたいと願っています。

1 公立幼稚園の基本方針を見直してください

今回の公立幼稚園再編は、約10年前に策定された「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」をもとに進められています。

しかし、基本方針の策定以降、宝塚市の就学前教育を取り巻く環境は大きく変化しました。少子化の進行に加え、共働き世帯の増加、保護者の就労形態の多様化、幼児教育・保育の無償化、3年保育を前提とした園選びの一般化など、保護者のニーズは大きく変化しています。

さらに、宝塚市が現在推進しているインクルーシブ教育や探究的な学びなど、公教育に期待される役割も、この10年間で大きく広がりました。

行政計画は、一度策定したら変えないものではなく、社会情勢や市民ニーズの変化に応じて検証し、必要に応じて見直すことで初めて実効性を維持できるものと考えます。

私たちは、10年前に策定された基本方針そのものを否定しているのではありません。

しかし、その方針が策定された当時の前提条件が現在も妥当であるかについて十分な検証が行われないまま、一部の基準のみを根拠として公立幼稚園の再編を進めることには、大きな疑問を感じています。

また、園児数の減少についても、「適正規模に達していない」という結果だけを見るのではなく、その背景にある原因を検証することが重要ではないでしょうか。

例えば、公立幼稚園では長年にわたり2年保育を維持してきましたが、一方で保護者の多くは3歳からの入園を希望しています。実際に3年保育を実施している私立幼稚園ではもちろん、公立幼稚園でも3歳児の入園児数が一定数いるという実態があります。

つまり、現在の園児数は、少子化だけではなく、公立幼稚園の制度と保護者ニーズとの間に生じているミスマッチの影響も受けていると考えられます。

このような社会情勢の変化や園児数減少の要因について十分な検証を行わないまま、園児数という結果のみを根拠として公立幼稚園の再編を進めることは、判断の前提として十分とは言えないと考えます。

私たちは、まず現在の社会状況や保護者ニーズ、そして宝塚市が掲げる教育理念を踏まえ、公立幼稚園の基本方針そのものを見直していただきたいと強く要望いたします。

2 宝塚市が目指す教育は、すでに公立幼稚園で実践されています

市長が掲げるインクルーシブ教育や探究的な学びは、将来の目標ではなく、宝塚幼稚園をはじめとする公立幼稚園で日々実践されています。

宝塚幼稚園には、外国にルーツを持つ子ども、日本語による支援が必要な子ども、発達や身体面で配慮を必要とする子どもなど、多様な背景を持つ子どもたちが在籍しています。

子どもたちは互いの違いを自然に受け入れ、共に遊び、共に学び、共に育っています。

また、公立幼稚園では、子ども自身が身近な環境から課題を見つけ、自ら考え、友だちと協力しながら学びを深める探究的な活動が日常的に行われています。

さらに、公立幼稚園では教職員の異動があっても教育の質が維持され、高い専門性を持った先生方が一人ひとりに寄り添った教育を実践されています。

この教育の質は、公教育だからこそ市全体で保障できる大切な財産であると私たちは考えています。

3 園児数減少への対策として、3年保育を試行してください

現在、公立幼稚園の園児数減少が再編の理由の一つとされています。

しかし、その背景には、保護者の多くが3歳からの入園を希望している現状があります。

実際に市内の3年保育実施園では3歳児の割合が高く、4・5歳からの入園は極めて少ない状況です。

このことは、2年保育では保護者の選択肢に入りにくくなっている現実を示しています。

園児数のみを理由として判断する前に、廃園対象園で3年保育を試行し、その効果を検証することが必要ではないでしょうか。

私たちは、まず試行し、その結果を踏まえて議論していただくことを要望します。

4 公立幼稚園を必要としている家庭があります

私たちは私立幼稚園を否定しているわけではありません。

一方で、公立幼稚園だからこそ安心して子どもを預けられる家庭があることも事実です。

実際に、私立園から公立園へ転園してきた子どもや、様々な事情から公立幼稚園を選択している家庭があります。

こうした現状を踏まえると、私立幼稚園で十分な受け皿が整ったとは言えない中で公立幼稚園を縮小することは、子どもたちに不利益をもたらす可能性があり、時期尚早と考えます。

おわりに

私たちは、宝塚幼稚園だけを守りたいものではありません。

宝塚市が目指すインクルーシブ教育と探究的な学びを、就学前教育から未来へつなぎ、公立幼稚園全体が持続的に発展していくことを心から願っています。

ぜひ一度、宝塚幼稚園へお越しいただけませんか。

現場をご覧いただければ、数字や資料だけでは伝わらない公立幼稚園の価値をより深くご理解いただけるものと確信しております。

また、現場で子どもたちを見守り、ともに子育てをしている私たち保護者の思いも、公立幼稚園の将来を考える上での大切な一つの声として受け止めていただければ幸いです。

どうか現場をご覧いただき、その上で宝塚市の公立幼児教育の未来をご判断いただけますよう心よりお願い申し上げます。

宝塚幼稚園を守る会 代表

宝塚幼稚園保護者一同

諮問事項 2 市立幼稚園の教育・保育の在り方について

資料 4 - 1

教育の質のさらなる向上

私立幼稚園に通う園児との公平・均等の確保（私立幼稚園児が受けられる教育サービスを市立幼稚園児にも）

保護者ニーズへの対応



3年保育の拡充

保育時間の延長

給食の提供

登園方法の緩和

その他

諮問事項 3 公教育における教育委員会及び市立幼稚園の役割

資料 4 - 2

宝塚市就学前教育ビジョンに基づく教育の
充実

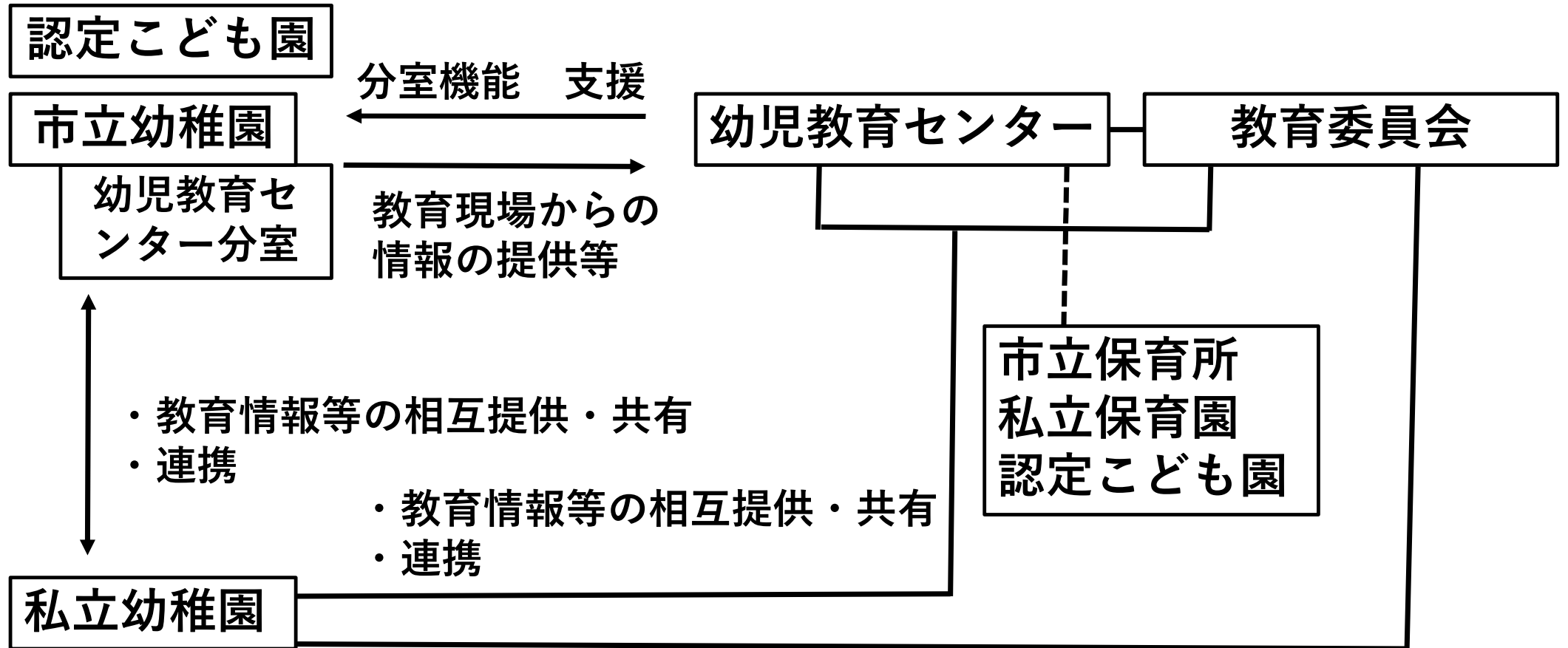
就学前教育・保育の拠
点としての市立幼稚園

特別支援教育の充実

小学校との連携

教育委員会及び市立幼稚園の役割を実現するために

資料4-3



教育資源の配分（人的、物的、金銭的支援）

市立幼稚園・私立幼稚園・認定こども園・市立保育所・市立保育園の垣根を越えてすべての子どもが等しく質の高い教育を受けられるように

前回（第12回宝塚市教育環境審議会）の資料及び発言内容の訂正について

以下について、訂正してお詫びいたします。

①配布資料（抜粋） 当日資料 ページ 6/11

- 廃園する場合のタイミングについて 廃園決定から廃園まで一定の時間が必要である。
- ①令和 10（2029）年度末をもって3園を廃園する場合（令和8年現在の~~2~~3歳児（※）が令和9年4月に~~3~~2年保育（※）に入園し、令和11年3月に卒園する時点をもって廃園）
→現在の2歳児が市立幼稚園か私立幼稚園の選択（令和8年11月）に廃園決定周知（8月）後からの時間的余裕がない。他方、廃園への時間が短いことから廃園決定後の入園者数の減少は一定程度抑えられると予想される（適正規模がさらに確保できなくなるおそれが比較的小さい。）
- ②令和 11（2029）年度末をもって3園を廃園する場合（令和8年現在の~~2~~3歳児（※）が令和10年4月に~~2~~3年保育（※）に入園し、令和12年3月に卒園する時点をもって廃園）
→現在の2歳児が市立幼稚園か私立幼稚園の選択（令和8年11月）までに廃園決定周知後からの時間的余裕がある。他方、廃園への時間が長いことから廃園決定後の入園者数の減少が大きいと予想される（適正規模がさらに確保できなくなるおそれが大きい。）

②議事録（抜粋）

閉園するとした場合のタイミングについては、閉園決定から閉園まで一定の時間が必要と考えられる。1つ目のケースとして、令和10年度末をもって3園を閉園する場合（令和8年現在の~~3~~2歳児（※）が令和9年4月に~~2~~3年保育（※）に入園し、令和11年3月に卒園する時点をもって閉園）は、現在の2歳児が市立幼稚園か私立幼稚園等を選択する令和8年11月までに閉園決定を周知してからの時間的余裕が非常に厳しい。他方、閉園への時間が短いことから閉園決定後の入園者数の減少は一定程度抑制されると予想される。

2つ目のケースとして、令和11年度末をもって3園を閉園する場合（令和8年現在の~~2~~3歳児（※）が令和10年4月に~~2~~3年保育（※）に入園し、令和12年3月に卒園する時点をもって閉園）は、現在の2歳児が市立幼稚園か私立幼稚園等を選択するまでに比較的時間的余裕がある。他方、閉園への時間が長いことから閉園決定後の入園者数の減少が大きいと予想され、適正規模がさらに確保できなくなるおそれが大きいと考えられる。